

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 31日

事業所名 児童発達支援センターらいむの丘

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	19	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数の多い日は部屋を広げて使用している。</li> <li>・人数が多いクラスは、分けて活動し、大人数にならないようにしている。</li> <li>・利用人数に応じて部屋を利用している。</li> <li>・子どもの様子から一部屋で活動せず、しきりを使用して2部屋で活動している場合もある。</li> <li>・安全確保のため、1グループの利用定員(例:グループ6名まで)やのグループ数(例:放デイも含め1日6グループまで)を定め、現在の数を減らすべきだと思う。</li> <li>・活動によっては狭く感じる場合があります。</li> </ul>	
	2 職員の配置数は適切である	9	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに目が行き届いていないと感じるときがある。</li> <li>・療育へ入る職員に偏りがあると思う。</li> <li>・保育士や言語聴覚士の職員定数が不足しながら、サービスを実施している。本部と連携を図り、採用募集を行っている。職員数の減少により、各職員の業務量がふえているため、時間外費用や、年次休暇の推進を行っている。</li> <li>・配置数は適切であるが、職員前線の人数が少ないため、配置に余裕がなくなっている。</li> <li>・休憩がとれない。</li> <li>・配置が足りなく、一人ひとりの業務負担が大きく、書類がなかなか進まない。</li> <li>・募集をかけているが、希望者がいない。</li> <li>・時間や場所などで工夫して療育を行っている。</li> <li>・職員数は足りていないと感じる。どの時間帯も療育に入っているのも、もう少し余裕がもてるとうい。</li> <li>・安全確保のため、1グループの利用定員(例:グループ6名まで)や1日のグループ数(例:放デイも含め1日6グループまで)を定め、現在の数を減らすべきだと思う。</li> <li>・保育士数は不足しているように思う。すぐには人数を増やすことはできないので、訓練士も含めて対応する必要がある。</li> <li>・余裕が持たず、焦ることがあります。</li> <li>・職員が休んだ際に、人員が足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数は不足しているため、現在採用募集を行っています。来年度は適切な人数を配置し、対応する予定です。</li> <li>・現在いる職員数で調整しながら日々の療育を行っています。適切と思う人数を話し合っていきます。</li> </ul>
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	23	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子通所では、もう少し部屋に広さが欲しいと感じる。</li> </ul>	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	16	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位を考え、効率よく業務をこなすことを苦手とするスタッフが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価について、その内容や改善点も含め周知していきます。</li> </ul>
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	23		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない*2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価の結果、は施設内で掲示すると共にホームページに掲載します。</li> </ul>
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない*2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者による外部評価は行ってません。</li> </ul>
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない*2</li> <li>・把握していない。</li> <li>・第三者の外部評価を行っているのか、理解していない。</li> </ul>	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・休所日に他施設見学や、個人的に参加できる研修の案内が来ている。</li> </ul>	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	23	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントが十分に行われていないこともあるように感じています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なアセスメントが行えるよう、職員全体でアセスメントを行っています。</li> </ul>
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士の口頭での話し合いが中心で、標準化された評価様式はなく、今後検討していくことが課題。</li> <li>・決まったアセスメントツールは使用していないが、発達検査や発達のめやす等を用いて子どもの状況は把握している。</li> <li>・分からない。*2</li> <li>・現在は使用していない。今後、必要に応じてツールの選定、使用を試みていく。</li> </ul>	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	21	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不十分などところがあるように感じます。</li> </ul>	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	22	1		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	21	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで行っているクラスもあるが、一人が負担しているクラスがある。</li> </ul>	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	23	1		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	24			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	23	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の職員が支援を連続して行うことがあるので、打合せの時間が取れないこともある。</li> </ul>	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	24			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	23	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで話し合う時間が少ない。</li> </ul>	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	23		<ul style="list-style-type: none"> <li>・半期に一回している。</li> </ul>		
連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	22		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない</li> </ul>	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	20	1		
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	17	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の利用児に、医療的ケア児の契約は無し。</li> <li>・担当するお子さんがおらず、直接支援していない。</li> <li>・直接は支援していない。</li> </ul>	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 31日

事業所名 児童発達支援センターらいむの丘

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	17	3	・現在の利用児に、医療的ケア児の契約は無し。 ・担当するおさんがおらず、直接支援していない。 ・直接は支援していない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	24		・すべてのケースではないが、必要に応じて行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	24		・すべてのケースではないが、必要に応じて行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	24		・休所日に見学に行ったり、他施設の先生に来ていただいて研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	19	2	・今年度単独通園のおさんを保育園で交流に行かせていただいている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	15	8	・自立支援協議会の子ども部会がない。子ども子育て会議には、参加している。 ・把握していない。	・地域の子育て会議には参加しています。内容はホームページ、広報等に掲載しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	1	・話を聞いたり等行っているが、回数・時間ともにさらに行う方が良いと感じる。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	16	6	・家族プログラムは実施していないが、個別の保護者の悩みに関して、保育士やリハビリ専門職が共同して、保護者を取り組めそうな、子どもへの関わりを提案・助言している。 ・ペアレントトレーニングはしていないが、定期的に保護者様研修会を開いている。 ・分からない。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	24		・サビ管の先生がしている。 ・事業所内では行っていると思うが、まだ説明したことがない。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	24			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	23	1	・定期的には、個別支援計画の更新時に、その他では随時保護者様からの声掛けがあった時や職員から声をかけて、相談の機会を設けることがある。 ・時にはチームで話し合うときもある。 ・その場で返答できない場合は、後日対応もあるが、今後は、様々な情報提供等が必要と考える。 ・一人では対応せず、グループや上の人に伝え、答えていくようにしている。 ・保護者から話があった場合には応じている。定期的にはできていないと感じる。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18	2	・保護者研修会の中で交流を持ち、職員との交流時間を設けている。 ・保護者の連携の場は設けていないが、未就園の親子のグループでは、年に数回、母子分離で保護者同士の交流の場を設けている。 ・親子通所をしている利用児の保護者様には、分離の機会を設け、その時間で保護者様同士で話ができるような茶話会を行うことがある。 ・父母の会はないが、保護者が参加しやすい物作りなどの機会を設けている。 ・就園、就学に向けての情報等を聞く等できる機会を提供できると良いと感じる。	・保護者様向け研修会を定期的に開いて、保護者様同士の交流の場がもてるようにしています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	24			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	24		・単独通所の利用児には、「らいむの丘だより」を配布。その他きずなネットで情報発信をしている。 ・おたよりを毎月出している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	24			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	24			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	21	3	・児発単独では行っていないが、課としての事業で地域の方との交流が持てるような事業を行っている。 ・分からない。 ・利用しているか続投はわかるが、地域への周知がさらに必要であると感じる。 ・コロナ、インフルなどの感染防止のため中断している。	・児発としては行っていないが、福祉ヴィレッジ全体として行っています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	23	1	・防犯の際の講演会(警察職員)が必要であると感じる。 ・保護者にまでの周知になっているかは疑問を感じます。	・防犯については、今後警察の方等に教えていただく機会をもちたいと考えています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	24		・災害時の避難・訓練は他部署とも連携していく必要あり。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	23	1	・増えた場合、保健師からの報告がある。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	23	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	22	2	・事例集の作成はしていない。事案が起こったときの報告書の作成は行い、職員に周知している。	・報告書を職員に回覧し、周知していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	24			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	20	3	・今後記載となる。 ・計画書への記載にまでは至っていない。 ・分からない。	